

「スクール・ニューディール」構想に基づく太陽光発電等導入事業について

国は、全国の公立小中学校 1 万 2 千校に太陽光発電システムの導入（現在の 10 倍）を目指し、同事業を支援する「スクール・ニューディール」構想を提唱しています。

導入に係る実質的な地方負担は 2.5%



太陽光発電の導入に合わせて行う省エネ改修事業についても、ほぼ同様の支援が期待できます。

《 実施可能な省エネ改修手法例 》

- 高効率照明の導入（調光装置、人感センサーも対象に含む）
- 高効率空調設備の導入
- ペレットストーブ等
- 二重サッシ、断熱材等
- 節水機器、雨水利用システム
- 校庭の芝生化、ビオトープ作り

導入効果

- 太陽光発電システム導入による効果

- 電気代削減効果：約 1 2 万円/年（電気量料金のみを算定）
- CO2 排出量削減効果：約 6 トン/年

- その他の省エネルギー手法採用によるエネルギーコスト削減効果等

- 高効率照明器具、高効率空調機器の採用により、電気代の約 20～30%を削減することが出来る
- ペレットストーブの採用により、CO2 の排出量を“ゼロ”と見なすことができる

- 生徒（家族を含む）教職員の環境意識の向上
- “環境意識向上”の周辺住民への波及効果
- 地域経済の活性化 etc.